

◆適正な水管理で高品質米を目指そう！◆

現在、つがるロマン・まっしぐら・青天の霹靂ともに出穂期を迎え、最も水を必要とする時期となっています。できる限り水田に水が入っている状態を保ってください。

早期の落水が米の品質に悪影響を及ぼします。8月後半まではできる限り水田に水が入っている状態を保ち、登熟も順調に進むように高品質米を目指しましょう。

気象庁発表の1ヶ月予想では暖かい空気が流れ込みやすいため気温は高めに推移すると予想されております。出穂後、高温が続くと、胴割米が増えるなど品質の低下が心配されますので、積極的にかけ流しや水の入れ替えなど行い地温を下げることを心掛けましょう！



1. 出穂状況

大鰐地区では早い所では7月24日頃から走り穂が見られてきました。

現在、管内全域においておおむね出穂期を迎え、4～5日早めの生育となっています。

2. 水管理

時期	水管理	コメント
出穂開花期 (7月下旬～)	気温の高い日…5～6cm、時々入れ替え (猛暑日…かけ流しによる地温低下促進) 気温の低い日…10cmの深水	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>稲の生育期間中、最も水を必要とする時期です。</u> ・開花・受精促進や根の活力維持の効果があります ・<u>猛暑日はかけ流しを実施(胴割れ米防止対策)</u>
登熟期(8月上中～下旬)	気温の高い日…2～3cm、時々入れ替え 気温の低い日…10cmの深水	湿田や秋落田では、根の老化を防止するため、掛流しや土壤に軽く亀裂が入る程度の間断かんがいを行いましょう！
落水期(8月最下旬～)	落水の目安 湿田…出穂後20～25日 乾田…出穂後30～35日	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に落水すると、玄米の肥大が抑えられるため、収量や品質の低下が心配されます。 ・<u>高温が続いている場合、稲に供給される水分が不足するため、胴割米などが発生しやすくなり、品質の低下に繋がります。</u>

◆ポイント！ 出穂後、高温が続く場合、地温・水温の低下を！◆

今年は気温の高い日が続いているため品質低下を防ぐためにもかけ流しや水の入れ替えを行い水田の地温・水温を低下させましょう！出穂後に高温が続くと胴割米、乳白米が増えるなど品質の低下に繋がります。

3. カメムシ防除

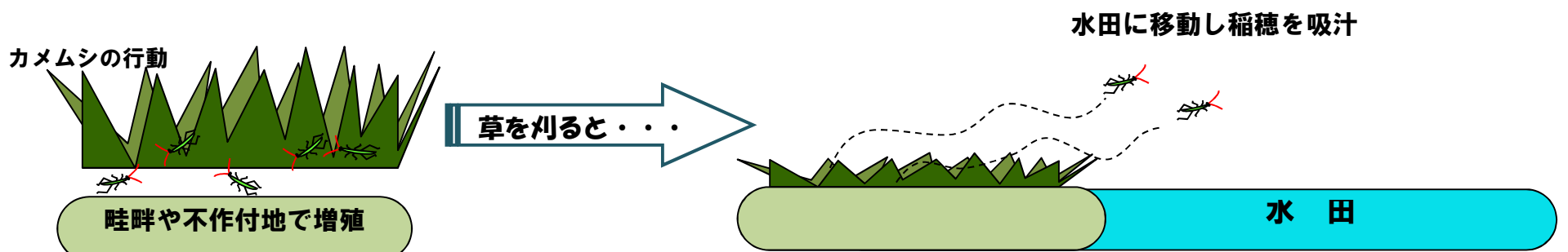
航空防除散布日程

8月11日(水) (カメムシ類防除) スタークル液剤 8倍(800cc/10a)

8月20日(金) (カメムシ類防除) スタークル液剤 8倍(800cc/10a)

※ 雨天の場合は翌日以降へ延期となります。

8月末までの、畦畔ならびに周囲の草刈りは、かえってカメムシを田んぼに追い込み、被害に結び付く恐れがありますので行わないでください。



等級	1等	2等	3等	規格外
千粒の着色粒混入限界	1粒まで	3粒まで	7粒まで	8粒以上

1,000粒にわずか2粒の混入で2等米に格下げ！！